

冠動脈CT検査へ0 (ゼロ) からの挑戦 ～地域診療貢献のための取り組み～

若林 努 / 伊藤 龍幸 / 伊藤 勝行 男鹿みなと市民病院放射線科

人口減少、高齢化などの課題を抱える秋田県男鹿市において、唯一の公立病院が、当院、男鹿みなと市民病院である。そのような課題を抱えるため、外来患者数の減少と厳しい状況の中ではあったが、2009年より稼働していた16列のCT装置がついに限界を迎えたため、2022年9月に13年ぶりの更新となった。更新により検査の幅が広がり、冠動脈CT検査も可能となったため、当院における冠動脈CT検査の立ち上げについて述べていく。

秋田県男鹿市について

男鹿市は、秋田県の西部、男鹿半島の大半を占めている。三方を海に囲まれ、交通網が「行き止まり（袋小路）」になる地形となっている。「男鹿市」を知らない方でも、「なまはげ」はご存じの方が多いと思う。男鹿市はその「なまはげ」の郷として知られている（図1）。

当院から秋田県の中心である秋田市まで約40km、車で約1時間の距離であり、秋田市への通勤圏となっている。しかし、冬場の気象条件は厳しく、電車も男鹿線の終着駅である男鹿駅が当院から徒歩圏内にあるが、本数は1時間に1本あるかないかであり、秋田駅までの所要時間は約1時間である。車にしても、電車にしても、当院からは約1時間、当院よりも北部に位置する集落からは、さらに時間がかかる。市内の循環バスもあるが本数が少ないため、車がないと病院受診さえも厳しい環境である。

ここで、秋田県の人口動態について説明する。

2025年の国勢調査によると、県全体

で人口約88万人。そして、人口減少率は8.1%で全国ワースト。さらに、全国ワーストが6回連続と人口減少が著しい状況である。

男鹿市においても秋田県の流れに漏れず、人口推移を見ると右肩下がりとなっている（図2）。年代別の人口分布図を見ると、70歳代が中心となっており、高齢化が進んでいる（図3）。

当院の診療背景と現状

当院は男鹿市で唯一の公立病院であり、市内で入院設備があるのは当院だけである。

以下は当院、放射線科の概要である。

- 医師数：再任用を含め16名いるが、放射線科医は在籍していない。
- 病床数：2病棟で一般病床のみの110床

- 1日の外来患者数：約280人（2025年平均）

- 診療放射線技師5名、事務員1名で放射線科業務を担当

外来患者数は、2000年代の前半に大きく減ったが、近年は緩やかな右肩下がりとなっている（図4）。現状としては、人口減少とともに病院の外来患者数も減少傾向のため、機器更新もままならない状況となっている。

そのような状況であったが、2009年から稼働していたCT装置の更新時期に伴い、2022年9月に富士フイルム社製「SCENARIO View」（64列）へと更新になった。また、当院初となるワークステーション（WS）も、富士フイルム社製「SYNAPSE VINCENT」が導入された。WSの導入は、撮影した画像の処理・解析に大きく寄与するため、装置更新前より検査の幅は格段に広がるのではないか、



図1 秋田県男鹿市の位置